

# J A B E E 信 通

日本技術者教育認定機構

(第84回)

日本女子大学家政学部住居学科 J A B E E 認定までの歩み(4)  
日本女子大学 家政学部住居学科 教授 J A B E E 対応責任者

石川 孝重

## 四. 学科の特性と学生の対応

J A B E E 機構は、卒業要件 J A B E E 認定要件となる、一学科全体が J A B E E 認定を受けることを基本としている。しかし本学科で J A B E E 認定を受ける上で、教員全員に共通した認識があった。それは、学生全員に J A B E E 認定基準を満たす科目履修を課すことは学科の成り立ちとして適当でない、ということである。住居学科の場合、学生全員が建築の技術者を志すわけではない。住宅建築をつくる側に就職する者は多いが、住まう側の観点をウリにしてきた。そのため、履修科目の自由度がかなり低くなる千八百時間という学習時間を全員に課すことは望ましくない。学生にとって大きな魅力の一つとなっている、個々のニーズに合わせたカリキュラム・専攻選択の自由度を担保することも捨てがたい。本学科では、建築環境デザイン専攻と居住環境デザイン専攻を、二年度後期から選択することになっている。最終的に J A B E E 認定に関しては、どちらの専攻からも学

生の自由意志で登録できる J A B E E 認定コースを新たに設置することとし、その名称を「建築技術者教育コース」とした。

当時はまだ、J A B E E 本体の認定基準が変化していたことにより、住居学科における履修条件なども確定できず、流動的な状況であった。ましてや、最終的に J A B E E 認定を受けられるかどうかさえ決まっていないこの制度に、はたして何人の学生が興味をもつのか、千八百時間を本学の単位に換算すれば百六十数単位、この条件に何人の学生が挑戦するのか、これまでの卒業生の履修実績調査から学生の三分の二程度は、規定の学習時間をクリアしていることはわかってはいたが、結果が出るまでは、教員も暗中模索であった。ふたを開けてみれば、当時二年度のなかで二〇名ほどが J A B E E 認定コースに登録を希望した。両専攻から学年全体の二割強が登録を希望しているという状況に、多少の驚きとともに、学生への心強い期待をもった。学生の理由の多くは、「最終的に、就職の役に立つことを期待している」という声であったが、かなりの割合で「大学で勉強するのであれば、

自分にとって、多少厳しい条件を課しておいた方がいいと思う」「大学にいる間に、住居・建築に関してできるかぎり多くのことを勉強しておきたい」という学生もおり、この声に、われわれ教員も触発された。その後も、各学年二十名を超える学生が、J A B E E 認定コースへの登録を希望している状況である。

J A B E E 認定を取得する上で、大学、学部、事務サイド、あらゆる全学的な部署の協力が不可欠であったし、非常勤講師の先生方の理解と多大な支援がなければここまでこぎつけられなかったことは言うまでもない。それに加え、ここまでの道のりは、学生の協力なしでは成り得なかったと思っている。エビデンスの収集には、個々の学生にもかなりの作業負担が生じている。試行・実地審査で行われた学生インタビューには、課題の提出締め切り直前の学生も快く参加してくれた。それだけでなく、J A B E E 認定という、まだ建築分野では産声を上げたばかりの制度に取り組みうとする学科の方針を理解し、教員とともに取り組み、また自らも挑戦しようとした積極的な学生の姿勢に感慨を覚える。■